



# 長良川遊水地における環境について

令和元年9月30日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

# 既往調査の実施状況と確認された重要種

- 長良川中流域では国、岐阜県において環境調査を実施している。
- 実施した調査において、ネコギギ、オオサンショウウオをはじめとした重要種が確認されている。

長良川60～80k間で実施された環境調査の位置図



長良川60～80k間で確認された重要種一覧

種名	重要種カテゴリー		
	文化財保護法	環境省RL	岐阜県RDB
魚類			
スナヤツメ類		VU	II or 準
ニホンウナギ		EN	
ヤリタナゴ		NT	準
アブラボテ		NT	準
ヌマムツ			準
カワヒガイ		NT	
ゼゼラ		VU	
イトモロコ			準
ドジョウ		NT	
トウカイコガタスジシマドジョウ		EN	
アジメドジョウ		VU	
ネコギギ	天然	EN	I
アカザ		VU	
サツキマス (アマゴ)			準
カマキリ		VU	
底生動物			
コシダカヒメモノアラガイ		DD	
ナガオカモノアラガイ		NT	
トンガリササノハガイ		NT	II
キイロサナエ		NT	
コオイムシ		NT	
昆虫類			
コオイムシ		NT	
タガメ		VU	II
コシロシタバ		NT	
クロゲンゴロウ		NT	
コガムシ		DD	
ヤマトアシナガバチ		DD	
ヤマトスナハキバチ本土亜種		DD	
鳥類			
ヒクイナ		NT	II
カイツブリ			準
ケリ		DD	
ミサゴ		NT	
両生類			
オオサンショウウオ	特天	VU	II
トノサマガエル		NT	
爬虫類			
ニホンイシガメ		NT	準
哺乳類			
カヤネズミ			準
植物			
クヌギ			不足
ミズマツバ		VU	

文化財保護法 天然：天然記念物、特天：特別天然記念物  
 環境省RL (2018) EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足  
 岐阜県RDB (2010) I 類：絶滅危惧 I 類、II 類：絶滅危惧 II 類、準：準絶滅危惧、不足：情報不足

出典：長良川自然環境調査 (H13；魚類、底生動物、昆虫類、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、植物) 【岐阜県】  
 河川水辺の国勢調査 (H12；魚類) 【国土省、岐阜県】  
 長良川中流部環境調査 (H27～R1；魚類、底生動物、昆虫類、鳥類、植物) 【国土省】

## 定置網による調査状況(令和元年7月)



## 夜間潜水調査状況(令和元年9月)



## 調査箇所における確認種



ネコギギ

(出典:天然記念物ネコギギ保護管理指針(三重県))



オオサンショウウオ

(出典:特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針(三重県))

## 調査箇所における生息状況



ネコギギ



オオサンショウウオ

ネコギギ・オオサンショウウオとも上流から全体的に生息が確認された。  
ネコギギについては当才魚が確認されていない。  
横越地区においてはギギも確認されている。

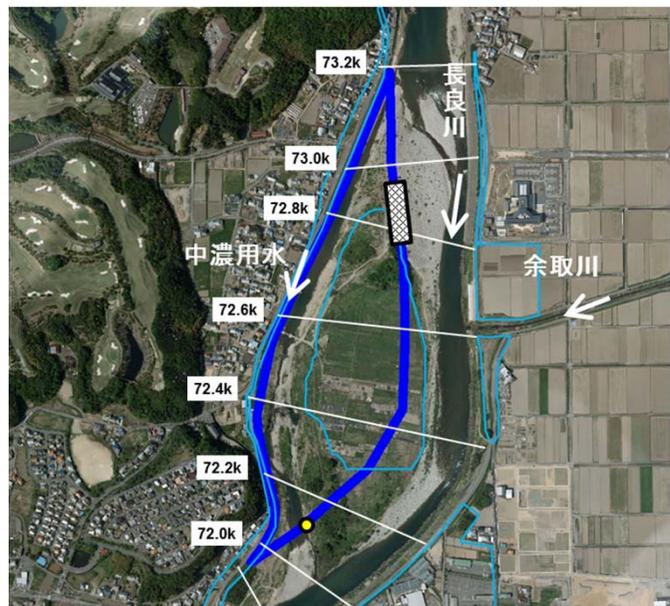


ネコギギ



オオサンショウウオ

## 美濃市横越地区



## 関市池尻地区



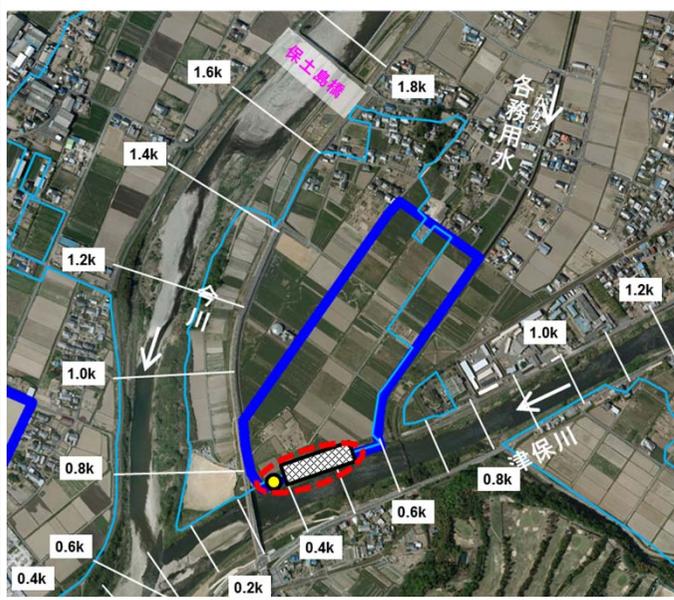
凡例

越流堤		排水樋門	
開口部			

## 関市小瀬地区



## 関市下白金地区



## 関市保戸島南地区



## 岐阜市溝口地区



# 遊水地候補地の環境調査(まとめ)

- ・遊水地候補地は、堤内地の農地利用を継続しつつ周囲堤などを築く横越地区以外と、河道内を掘削し周囲堤などを築く横越地区で改変の程度は分けられる。
- ・横越地区以外は、周囲堤など部分的に改変されるが、農地利用が継続されることから、環境の変化は小さい。
- ・横越地区は、掘削および周囲堤などにより陸域および副流路が改変される。ここに生息生育する動植物は本川の広い範囲で確認されている種であることから種の生息生育に大きな変化を与えるものではないと考えられる。また、工事の際に重要種は採捕を行い、生息域へ移動することで生息する個体は生存が可能と考えられる。
- ・天然記念物のネコギギ、特別天然記念物のオオサンショウウオについては長良川中流域で確認されているおり既往の文献調査結果と一致している。いずれの候補地においても、河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さいと考えられる。また工事にあたっては、モニタリングにより生息状況を確認し、それに応じて濁水や土砂の流出などに配慮した施工を行うことが可能である。

		候補地					
		(上流側)			(下流側)		
		横越	池尻	小瀬	溝口	保土島南	下白金
環境特性	候補地内	陸域は外来植物や竹林が主である。副流路ではイトモロコ、アジメドジョウ等、本川にも生息する魚類が確認されている。	耕作地が主であり、水田や水路に生息するドジョウ、ヤリタナゴ、トンガリササノハガイ等が確認されている。	耕作地が主であり、池尻地区で確認されているような耕作地に依存する生物の生息が想定される。	耕作地が主であり、池尻地区で確認されているような耕作地に依存する生物の生息が想定される。	耕作地が主であり、池尻地区で確認されているような耕作地に依存する生物の生息が想定される。	耕作地が主であり、池尻地区で確認されているような耕作地に依存する生物の生息が想定される。
	周辺河道	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。	他候補地周辺で確認される種と類似している。長良川中流域では、希少種が確認されており広い範囲が生息域であると考えられる。
工事内容		周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置 河道掘削(平水位以上)	周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置	周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置	周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置	周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置	周囲堤、越流堤整備 排水樋門設置
工事により想定される環境への影響		・陸域および副流路が改変される ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい	・農地利用が継続されるため環境の変化は小さい ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい	・農地利用が継続されるため環境の変化は小さい ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい	・農地利用が継続されるため環境の変化は小さい ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい	・農地利用が継続されるため環境の変化は小さい ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい	・農地利用が継続されるため環境の変化は小さい ・河道内の平水位以下の改変は行わないことから直接の環境変化は小さい
工事実施時の留意点		・副流路に生息する重要種について、可能な限り生息域への移動を行うことで、影響を軽減する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。	・排水門設置箇所では、魚道の設置などにより遊水地との連続性を確保する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。	・排水門設置箇所では、魚道の設置などにより遊水地との連続性を確保する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。	・排水門設置箇所では、魚道の設置などにより遊水地との連続性を確保する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。	・排水門設置箇所では、魚道の設置などにより遊水地との連続性を確保する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。	・排水門設置箇所では、魚道の設置などにより遊水地との連続性を確保する。 ・工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時に配慮する。 ・事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。

- 横越地区では遊水地内の掘削や築堤により、副流路で確認されている魚類のアジメドジョウやアカザ、イトモロコ、底生動物のコオイムシの生息場は改変されるが、これらの種は周辺の本川でも確認されており、施工に際し可能な限り調査・移植を行うことで、影響を軽減することが可能である。
- 長良川中流域においてはネコギギ、オオサンショウウオが確認されているが、平水位以上の河道掘削であるため、生息環境である本川の水際部の直接改変は行われない。
- 工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時には配慮する。

## <配慮事項>

### 美濃市横越地区



- ①副流路を改変するが確認種は本川側にも生息しており、移植等により影響を軽減する。
- ②流下能力確保のために河道掘削を行うが、平水位以上の掘削であり本川水際部は直接改変しない

### 関市池尻地区



- ①本川を改変するような施工を行わない。
- ②水門設置箇所では、堤内地との連続性を確保する。
- ③周囲堤の施工にあたっては、魚類の移動環境に配慮する。

凡例

越流堤



開口部



➡ 事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。